

レモンプロジェクトが結実

林会長提唱 放棄地解消に一役

市会
委員
田辺
京農
農業

京田辺市農業委員会（林善嗣会長）は2013年、耕作放棄地を再生・整備し、レモンの苗木約50本を定植。これを実証圃場とし、「レモンプロジェクト」をスタートさせた。

担い手不足や高齢化が進むなか、管理に比較的手間のかからない果樹栽培によって、耕作放棄地の解消と新たな特産品を生み出すこ

とが狙いで、各農家へ栽培を呼びかけている。

同市には果樹農家がほとんどいないため、管理方法や費用など、実証圃で得た情報は、栽培を始める農家に提供し役立てている。

現在、レモンはしっかり



と実をつけ始めた。収穫したレモンは、市産業祭で市内産はちみつを使用した「はちみつレモン」として試験してもらうなど、PRに努めた結果、プロジェクトは農家・非農家を問わず、市民の間で広く知れ渡るようになった。また今年からは実際に定植を予定する農家も出てきている。

「まずは植えんとあかん」という林会長の一言で、手探りの状態から始まったプロジェクトは、5年目にしてようやく実を結び始めた。
(京田辺市農業委員会)

市産業祭では地元産のレモンに地元住民も興味津々